



副町長に  
遠藤 健治氏  
(59歳)

町議会3月定例会において、副町長選任の議案が審議され、遠藤健治氏の就任が決まりました。

遠藤氏は、旧志津川町の教育総務課長、企画課長、総務課長を歴任し、南三陸町の誕生から総務課長を務めました。

任期は平成19年4月1日から平成23年3月31日までの4年間です。

## 「助役」が「副町長」に変わり、「収入役」制度が廃止されます

地方自治法が改正され、平成19年4月1日から「助役」は「副町長」に変わり、「収入役」制度が廃止されます。

### ■「助役」は「副町長」に変わります

副町長の職務は、これまでの助役の職務に加えて、より積極的に関係部局を指揮監督し、必要な政策判断を行うなど、権限が拡充されました。

### ■「収入役」制度が廃止されます

南三陸町では、これまで収入役を置かず、町職員が職務代理で事務を兼務していましたが、法改正により収入役制度が廃止され、町の職員が「会計管理者」として収入役の事務を行うことになりました。

## 庄内の風 ⑦

### 「風の御意見番」レポート

今回は、南三陸町の及川善祐さんが庄内町を紹介します。及川さんは、庄内町の「風の御意見番」の一人として活躍されています。



及川善祐さん (◎南町)

私は、庄内町の「風の御意見番」を仰せつかっており、3月3日(土)～4日(日)の1泊2日の日程で山形県の庄内町に行ってきました。

この「風の御意見番」は、団塊の世代の方々をいかに取り込んで行くか？をテーマに、全国から公募等で集まった、まちづくりのための10名の意見集団です(物好きな人達?)。今回は第2回目の招集で、内容は庄内町の農業についてでした。山形県の市町村の合併後において現在、米の生産高は県内第3位という実績の庄内町は、一方で「トルコぎきょう」や「ストック」を中心とした花き生産に取り組み、年間5億円の出荷額を目指し、将来は10億円産業への夢を抱いています。花きの種苗センターを見学して、研究員、指導員を配置しての技術と規模の取り組みには、さすが農業の町と感心させられました。

また、<sup>もみ</sup>穀を特殊技術で肥料と共に混ぜ合わせ、



広大な農地 豊かな水を供給する鳥海山

「エコマット」なる苗床専用マットを生産し、全国発信をとの試みを進行中の農協の工場を視察しました。環境リサイクルという現代社会の命題である取り組みとそのアイデアに「ほお〜っ」という驚嘆の声が上がりました。

さて、私は自他共に認めるお酒好きであります。「<sup>こいかわ</sup>鯉川酒造」という250年以上も続いている酒蔵で、その粋な社長さんに案内されて、二日後に絞り始めるという大きな樽の中で、ブクブクとまるで何かおしゃべりでもしているような熟成中のお酒を酌んでいただき、ぐっと飲み干したあの味は、まさに筆舌に尽くしがたいものがありました。

庄内町の魅力はまだまだ盛り沢山で、今回はその一部をご紹介いたしました。機会があればまたご紹介したいと思います。

## 人権擁護委員に

阿部たつ子さん 小沢良孝さん 平形明子さん



阿部たつ子さん (◎日向)



小沢良孝さん (◎伊里前)



平形明子さん (◎中野)

私たちの基本的な人権の擁護、人権思想の普及などのために活動している人権擁護委員に阿部たつ子さん(◎日向)、小沢良孝さん(◎伊里前)、平形明子さん(◎中野)が委嘱されました。阿部さんは再任、小沢さんと平形さんは新しく委員になりました。人権擁護委員の任期は3年で、3人は平成19年4月1日付けで法務大臣から委嘱を受けたものです。

～お気軽にご相談ください～

現在、南三陸町では、6人の人権擁護委員が皆さんの人権相談に応じています。

※定例相談日は25ページをご覧ください。

◇問い合わせ 保健福祉課 社会福祉係(志津川保健センター内) ☎46-51113

歌津総合支所健康福祉課生活福祉係(歌津保健センター内) ☎36-3929

## 夢大使 リレー通信 ⑨



夢大使  
はが せい いち  
芳 賀 清 一 さん  
(仙台市)

各地で活躍する南三陸町夢大使の皆さんの声をお届けする「夢大使リレー通信」を連載しています。今回は、在仙志津川会会長の芳賀清一さんです。

## 望郷の念

「螢がとび、蛙が鳴き、小流にはどじょうや鮒がいた。草むらには蛇や蜥蜴も棲んでいた。私はそのような村の風物の中で、世界と物のうつくしさと醜さを判別する心を養われ、また遊びを通じて、生きるために必要な勇気や用心深さを、身につけることが出来た。」と名作「蟬しぐれ」の作家藤沢周平は、ふるさと鶴岡を偲んでエッセイに記した。

ふるさとを離れた人間にとつて、郷里はノスタルジア(郷愁)を掻き立てる何物でもないのであるか。私は高校を卒業して上京した。大学生活は新鮮だったが、一方で無性に志津川が恋しくもあつた。春愁の日々ふるさとの海恋ふる今にして思えば、単なる五月病に過ぎなかつたのかも知れないが、その空白を埋めてくれたのは、きまつて故郷の山河だった。

ふるさとは遠きにありてもふもの(室生犀星)とは、強い望郷の念の表白だという。南三陸六高会では最近「兎追いしかの山(ふるさと)」を合唱するようになった。単なる愛郷や故里讃歌ではなく、ふるさとの活性化を願って…。郷愁にはそんな期待も込められているのだ。

## ●インタビュー

### はつきりと聞き取りやすいように話しました。



及川千佳さん (◎寺浜)

町では、小中学校が夏休み期間の夕方、子どもたちが安全に帰宅できるよう防災無線放送で呼びかけていますが、放送(声)の前半は町内の小中学生が担当しています。今回その声の録音を協力してくれた及川千佳さんに話を聞きました。

事前に放送原稿をもらいましたが、読み上げてみると、とても難しく、うまく話せず不安になりました。そこで、落ち着いてはつきりと聞き取りやすい話し方を心がけ、暗唱するくらいにたくさん練習しました。

録音を終えての感想は、私としては、まああかな?思ったとおりでよかったと思います。ところで、私は藤浜小学校の最後の卒業生となりました。藤小での6年間はたくさんの思い出がありますが、中でも総合学習での船釣り、島めぐり、磯遊びなど海での活動が心に残っています。海での活動では地域の皆さんが船を出してくれるなど、いつも私たちを見守り、お世話してくれました。

4月からは中学生。勉強や部活動に頑張ります。また、ドラムかベースを覚え、バンド演奏を始めたいと思います。

将来は、プロのミュージシャンか、漫画家になりたいと思っています。